

硫黄酸化物

ごみを焼却処理した際にごみ中に存在する硫黄(S)分が反応し、生成される有害な化合物(SO_x)のこと。

雨水排水抑制施設

「埼玉県雨水流出抑制施設の設置等に関する条例(平成18(2006)年10月1日)」に基づき、1ha以上の開発行為等を行う場合に設置が義務付けられる雨水を一時的に貯留する機能などを有する施設のこと。

開発によって、敷地から域外への雨水流出量を増加させる恐れのある行為をしようとする場合は、あらかじめ知事の許可を受ける必要がある。

塩化水素

ごみを焼却処理した際にごみ中に存在する塩化ビニル等の塩素(Cl)分が反応し、生成される有害な化合物(HCl)のこと。

活性炭吹込法

排ガス中に活性炭の微粉を吹込んでダイオキシン類と吸着させ、後段のろ過式集じん器で捕集する方法のこと。

ダイオキシン類除去だけでなく、水銀除去にも有効である。

家庭系ごみ

生活系ごみから「資源ごみ」を除いた量を表す。

乾式法

主に発生した窒素酸化物をアンモニアや触媒等を用いて還元する方法を総称していう。

ごみ焼却施設では一般的に燃焼制御法に無触媒脱硝法や触媒脱硝法を組み合わせた方式が多く採用されている。

金属水酸化物

ガス化改質方式でごみを処理した場合に副生成物として生成される金属を含む化合物のことで、製鉄産業等において有効利用される。

計画月最大変動係数

廃棄物処理施設におけるごみの搬入は平均的に搬入されず、日々搬入量が変動する。このため、年間で最も変動が大きくなる月においても処理が可能なように、施設規模に対して余裕を確保するための係数のこと。

計画年間日平均処理量

廃棄物処理施設において、1年間に処理する計画処理量の全量（計画年間処理量）を年間日数365日で割った1日当たりの処理量のこと。

K値

大気汚染防止法（昭和48（1968）年）に基づくばい煙（ごみを焼却処理した際に発生する煙やスス）中の硫黄酸化物の排出規制における規制式に用いられている値。

硫黄酸化物の排出規制は以下の式を用いる。

$$q=K \times 10^{-3} H_e^2$$

q：許容される硫黄酸化物の排出量（Nm³/h）

H_e：有効煙突高（m）

K値は地表最大濃度に関するパラメータとなる。

工業塩

ガス化改質方式でごみを処理した場合に副生成物として生成される物質で製鉄産業等において有効利用される。

コークス

石炭を高温で乾留し、硫黄やアンモニア等不純物質を取り除き、石炭より発熱量を上昇させた燃料の一種で、ガス化熔融方式のシャフト炉式では熔融処理時の副資材として必要となる。

ごみ質

ごみの性質を表す指標のことで、「単位体積重量」、「三成分値」、「低位発熱量」、「種類組成」、「元素組成」を総称している。

最終処分量

ごみの焼却によって生じた焼却灰や飛灰等の焼却残渣を最終処分場に埋立処分する量をいう。最終処分量の定義としては、ごみの焼却残渣量だけでなく、ごみ焼却施設以外の中間処理施設（不燃・粗大ごみ処理施設等）からの残渣量や直接的に埋立される量（直接最終処分量）を含んだ量を示す。

三成分値

ごみを乾燥させて軽くなった部分の重量が水分、燃焼させて軽くなった部分の重量が可燃分、燃焼後に残った部分の重量が灰分とし、ごみの組成を表す。

スラグ、メタル

焼却施設でごみを焼却処理した後に排出される焼却灰を1,300℃以上の高温で熔融し、固化した固形物のうち、磁石につかないもの（スラグ）とつくもの（メタル）に分かれる。

生活系ごみ

一般家庭から排出されるごみの中で、「燃やすごみ」、「燃やさないごみ」、「有害ごみ」、「粗大ごみ」、「資源ごみ」を総称している。

触媒反応塔

触媒脱硝法を採用する場合に、触媒を充填するための装置のこと。

この装置内に充填した触媒とアンモニアを用いて、窒素酸化物の無害化処理を行う。

触媒脱硝装置

ごみの焼却に伴い発生する排ガスの処理装置の1つで代表的な装置。排ガス中に含まれる窒素酸化物を触媒を用いて、アンモニアと反応させ、窒素と水に分解し無害化処理を行う。

処理残渣

プラスチック類処理施設での選別処理後に生じる残渣（朝霞市では、軟質プラスチック、硬質プラスチック、残渣ペットボトル、和光市ではその他プラスチックが該当）のこと。

実稼働率

年間 365 日のうち、実際に施設が稼働する計画日数の割合を表す。

単位体積重量

ごみ 1m³あたりの重量を表す。

ダイオキシン類

塩化水素と同様に、ごみを焼却処理した際にごみ中に存在する塩素（Cl）が反応し、生成される有害な物質のこと。

窒素酸化物

ごみを焼却処理した際にごみ中に存在する窒素（N）分や大気中の窒素分が反応し、生成される有害な化合物（NO_x）のこと。

調整稼働率

施設の設備の故障の修理ややむを得ない一時停止等のために施設の処理能力が低下することを考慮した係数のこと。

低位発熱量

ごみが燃える際に発生する熱量のうち、ごみ中に存在する水分の蒸発による熱量を除いた発熱量のこと。ごみ焼却施設の設計に影響する指標となる。

燃焼制御法

ごみの燃焼条件を制御することで、窒素酸化物発生量を低減する方法で、燃焼方法の改善によって抑制することが可能となる。

排ガスの総量規制や地域の上乗せ基準等に対応するため、ごみ焼却施設では燃焼制御法に乾式法を組み合わせる場合が多くなっている。

破碎残渣

不燃・粗大ごみ処理施設で燃やさないごみや粗大ごみを破碎処理し、金属等の有価物を選別回収した後に残った残渣のこと。

ばいじん

ごみを焼却処理した際に発生する煙中の煤(すす)や塵(ちり)等に含まれる微粒子のこと。

バグフィルタ

ごみの焼却に伴い発生する排ガスの処理装置の1つで代表的なろ過式集じん装置。排ガスがバグフィルタ内に装着されたろ布を通過する際に、排ガス中のダスト(飛灰)がろ布表面に堆積されて集じんが行われることで排ガス処理を行う。

パブリックコメント

行政機関の基本的な政策や制度を定める計画、条例等を決める際に、その案や素案について、広く公表し、寄せられた意見等を案に取り入れることができるかどうかを検討するとともに、寄せられた意見などに対する行政側の考え方とその検討結果を類型化して公表する一連の手続のこと。

プラットホーム

ごみ焼却施設にごみ収集車等のごみを搬入し、降ろしていくエリアのこと。

無触媒脱硝法

アンモニアガス(NH_3)またはアンモニア水、尿素($(\text{NH}_2)_2\text{CO}$)をごみ燃焼炉内の高温ゾーン(800~900℃)に噴霧して NO_x を還元する方法をいう。

触媒脱硝法と異なり、触媒反応塔等の設備は不要となる。

ランプウェイ方式

地上2階等にごみを受け入れるためのプラットホームを設け、地表面からプラットホームまでを斜路で接続する方式。

(仮称)朝霞和光資源循環組合
ごみ広域処理施設整備基本計画
令和4(2022)年9月

発行 朝霞和光資源循環組合

編集 施設課 施設係

〒351-0192

埼玉県和光市広沢1番5号

電話 048-424-2253

URL <https://www.asawa-junkankumiai.jp/>

